

「大きな被害を想定」

冬・深夜・風速8m/s・早期避難率低で 甚大な人的被害を想定。

南海トラフ巨大地震では、建物の倒壊、津波、崖などの急傾斜地の崩壊、火災、ブロック塀や自動販売機の転倒、屋外の落下物などによって、甚大なる人的被害に見舞われると想定されています。

各県で死傷者が最大となるケースの内訳

		建物倒壊		津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
			(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)					
死者数 (人)	静岡県	約13,000	約1,200	約95,000	約40	約1,600	— (わずか)	約109,000
	愛知県	約15,000	約1,300	約6,400	約50	約1,800	— (わずか)	約23,000
	三重県	約9,800	約600	約32,000	約60	約900	— (わずか)	約43,000
	岐阜県	約200	約30	— (わずか)	約20	— (わずか)	— (わずか)	約200
負傷者数 (人)	静岡県	約79,000	約23,000	約12,000	約70	約1,400	約90	約92,000
	愛知県	約97,000	約32,000	約1,000	約60	約2,200	約200	約100,000
	三重県	約64,000	約12,000	約1,400	約80	約600	約30	約66,000
	岐阜県	約5,000	約1,000	— (わずか)	約20	— (わずか)	約10	約5,000

地震動：陸側ケース、風速8m/s、早期避難率低 静岡県の負傷者数の地震動のみ基本ケース

地震動に対して堤防・水門が正常に機能した場合、津波避難ビルの活用を考慮しない場合

津波ケース（ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に大すべり域を設定）

この被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、都府県別の数値はある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

出典：平成24年8月29日中央防災会議「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」から部分抽出